第２回安堵町総合計画・総合戦略推進委員会 会議録

日　　時	令和３年５月25日（火）午後１時30分～午後３時30分
場　　所	安堵町役場３階会議室
出 席 者	【安堵町総合計画・総合戦略推進委員会委員】11名 中山 徹（委員長）、福井 保夫（副委員長）、福田 昭彦（副委員長）、石田考志、沖 昇、野戸 久博、秋山 利隆、山﨑 眞季、西本 安博、堀口 善友、辰己 秀雄（敬称略・順不同）
	【事務局関係職員】５名 総合政策課　富井、川畑、佐藤 株式会社ぎょうせい　今中　矢吹
配布資料	資料１　　安堵町人口ビジョン（案） 資料２　　施策体系図（案） 資料３　　SDGs 体系図 資料４　　総合計画・総合戦略（案）
会議次第	議　事 （１）人口ビジョン（案）について （２）次期計画における基本構想・基本計画（案）について （３）その他

会　議　概　要

議　事

（１）人口ビジョン（案）について

中山委員長	それでは議事（１）人口ビジョン（案）について、事務局から説明をお願いします。 ◆事務局より、資料１「安堵町人口ビジョン（案）」を用いて概要説明があり、委員による検討が行われた。
中山委員長	委員の皆さまから、ご意見、ご質問等はございますか。
秋山委員	13 ページの黒丸５つ目の文章に「町の産業の強みと弱みを生かしたまちづくり」とある。「強みを生かす」ことは理解できるが、「弱みを生かす」という言葉の意味がわからない。
事務局	「弱み」は誤植なので、削除させていただきます。

福井副委員長	12 ページに関して、外国人の人口が 2020 年 12 月末で 213 人ということだが、どのあたりの職場で働いているのか。
事務局	安堵町内でも技能実習生を受け入れている事業所はありますが、大和郡山市の昭和工業団地内に技能実習生として勤めている方が多いと聞いています。
山﨑委員	8 ページのグラフを見ると斑鳩町の合計特殊出生率が最も高いが、その要因について分析しているか。
事務局	安堵町の合計特殊出生率が低いのは、10 ページにあるように男女とも有配偶率が低いことが影響していると考えられます。
山﨑委員	斑鳩町の合計特殊出生率は全国平均より高いので、何か理由があるのかと思い尋ねた。
事務局	斑鳩町の数値について分析はしていません。
福田副委員長	近隣の知り合いには、娘が結婚して斑鳩町に住んでいるという方が多い。実は私の娘も斑鳩町住んでいる。そういう方が結婚しても親元に近い安堵町に定住するような施策があればいいと思う。結婚しても安堵町に住み続けることができにくい理由として、調整区域の問題で新たに家を建てられないといったことをこれまでもよく聞かされてきた。難しい問題だが、そのあたりのことを解消する施策が何かあればと思う。
山﨑委員	斑鳩町役場の一番目立つところに育児スペースが設置されている。斑鳩黎明保育園がオープンしたり、役場の一角で保育士が子供を預かってくれるスペースができたりするなど、斑鳩町が子育ての面で力を入れているので、合計特殊出生率がこのような結果になったのかと思い質問した。
事務局	そのようなことも参考にしながら、総合計画、総合戦略について検討していきたいと思います。
野戸委員	町の人口に外国人は含まれているのか。
事務局	含まれています。
野戸委員	安堵町の外国人の比率は、他市町と比べてどうなのか。

事務局	本日の会議では細かい資料を用意していませんが、外国人の比率は他市町と比較して高いということを把握しています。
野戸委員	外国人の有配偶率はどうなのか。
事務局	外国人は技能実習生ということで若い方が多いので、有配偶率で全国平均、県平均を下回っている世代のほとんどは日本人だと思います。
事務局	付け加えますと、ここ５年間で町内の外国人が 200 人ほどに増えましたが、うち 100 人程度は技能実習生としての就労のため、単身者で滞在期間が短く、入れ替わっているのが現状です。その中には、技能実習期間を終えた後、そのまま事業所に定着する方もいます。そのようにして近隣市町に勤めながら、安堵町に籍をおいている方が 70 人ほどいると聞いています。
事務局	安堵町の人口に対する外国人の比率は 2.7 です。比較的高いといわれる川西町で 2.2、斑鳩町は 0.62 ですから、安堵町はけっこう高いといえます。
野戸委員	技能実習生を受け入れる工場が多いので外国人が増えているということだが、実習生ではない外国人についても見極めて分析していく必要がある。
山﨑委員	12 ページの２つの円グラフは、それぞれ比率の高い内訳順に色分けされているが、内訳別に色分けしたほうが比較しやすいのではないか。
事務局	ご指摘のとおりなので、そのように修正します。
中山委員長	このままでは町の人口が劇的に減ってしまいます。それをどう防ぐか、減り方を穏やかにするか、というのが人口ビジョン、総合戦略の大きな目的になるかと思います。５ページの２つのグラフを見比べると、縦軸の単位の違いを考慮しても、明らかに自然増減の推移のほうが変化が著しいことがわかります。亡くなる方を政策的に抑えるのは簡単ではないので、自然減を抑えるのは出生数を増やすしかなく、非常に低い合計特殊出生率の改善が避けては通れない課題となります。合計特殊出生率に影響を与える要因はいくつかありますが、大きなものの一つが 10 ページにある有配偶率です。日本はヨーロッパと異なり、結婚せずに子どもを生む方が非常に少ない。20 年 30 年後に結婚せずに子どもを生む方が増えるかどうかはわかりませんが、少なくとも現状では結婚して子どもを生むという方が日本では圧倒的に多く、有配偶率が出生率にかなり大きな影響を与えます。男性については、30 代前半や 40 代前半の安堵町の有配偶率は県平均と比べて 20%ほど低くなっています。女性についても県平均より 10%以上低い年齢層がありますので、このような状況になっている要因を

	きっちり考えないと、なかなか対策がとれません。一つ考えられるのは、先ほどのご意見にもあったように、結婚と同時に町外に転出してしまうということです。 安堵町の女性が結婚しないのではなく、結婚後も町に残る方が少ないということも考えられますが、例えば７ページの表を見ると、斑鳩町との移動では安堵町が転入超過になっています。年齢もわからないので、このデータからは、結婚後に斑鳩町に転出してしまう方が多いかどうかはわかりません。結婚して斑鳩町に転出してしまう方が多い代わりに、斑鳩町から転入してくる単身者が多いというのであれば、このデータも理解できますが、実際にそういう状況なのかどうかはわかりません。安堵町の女性が周辺市町と比べて結婚しない方が多いというのは考えにくいので、ここまで有配偶率が低いのは、何らかの要因があるように思います。有配偶率を上げることは出生率の改善に不可欠です。安堵町に住む人が男女とも他市町に比べて結婚願望が低いとは考えにくく、なぜ有配偶率がここまで低いのか。これは時間をかけて考えていくべきことだと思います。
山﨑委員	赤ちゃんが生まれたときに民生委員からちょっとしたプレゼントをしているが、その数が 40、50 あった年でも、その子たちが小学校に入る頃になると、かなり減っている。子どもを生んでも、新入学前に転出してしまっているために、結果として有配偶率が低くなっていることも考えられる。そのあたりのことも考えてみてはどうか。
中山委員長	今回第２期人口ビジョンを策定するにあたって、18 ページにあるように、2045 年の合計特殊出生率を 2.07 と目標設定しています。第１期も 2.07 だったのでしょうか。
事務局	はい。2.07 でしたので変わっていません。
中山委員長	第１期では 2010 年の国勢調査がベースで、第２期は 2015 年の国勢調査がベースとなりますが、2.07 という目標設定は変えないということですね。
事務局	はい。
中山委員長	基準人口のベースとする国勢調査の年度が変わるので、シミュレーションの上では若干数値が変わるかもしれませんが、目標とする合計特殊出生率の設定値は同じということで、第２期の考え方そのものは第１期を踏襲していると理解していいと思います。第１期総合戦略の計画期間が終了しましたが、安堵町に限らず、残念ながら全国的に目標通り進んでいる市町村のほうが少ないのが現状です。国の当初計画では、2020 年に首都圏と地方との転出入をゼロにす

	ることと出生率を 1.6 にすることを目標としていましたが、両方とも全く達成できていません。奈良県内でも目標を達成している自治体はほとんどありません。他の自治体ができていないからいいということはありませんが、なかなか難しいのは事実です。ただ、何もしなければどんどん人口が減ってしまいますので、今後５年間、目標達成のために知恵を絞って頑張っていただくことが大切と思っています。人口ビジョンについては次回の推進委員会でも協議する時間を設ける予定ですので、それまでに各自ご意見等をまとめていただければと思います。
（２）次期計画における基本構想・基本計画（案）について	
中山委員長	それでは議事（２）次期計画における基本構想・基本計画（案）について、事務局より説明をお願いします。 ◆事務局より、資料２「施策体系図（案）」、資料３「SDGs 体系図」、資料４「総合計画・総合戦略（案）」を用いて概要が説明された。
中山委員長	委員の皆さまから、ご意見、ご質問等はございますか。
山﨑委員	資料４の 38 ページと 40 ページの政策目標３のスローガンが異なるのはおかしいのではないか。
事務局	40 ページの「交流を明日に活かす地域を築く」が正しいので、38 ページを同じように訂正させていただきます。
福井副委員長	43 ページの基本施策６の施策項目②にある「義務教育学校調査研究」については町議会でも６月７日に勉強会を開く予定で、行政がどのような方針で進めるのか、様々な面から検証していきたい。また、45 ページの基本施策９の施策項目にある③結婚支援の推進構想については、何か具体的な案があるのか。
事務局	次の総合戦略に向けて案をとりまとめたいと考えています。
秋山委員	46 ページの基本施策 12 の本文に新型コロナウイルス感染症についての記述があるが、45 ページの基本施策９と 10 にも同様に新型コロナウイルス感染症に触れる記述があったほうがいいのではないか。
事務局	もう一度内容を整理し検討させていただきます。
山﨑委員	本議題には直接関係ないことだが、49 ページの基本施策 17 に関連しての民生委員の災害時の役割について、町民の皆さんの誤解がないよう、この場で話しておきたいことがある。防災組織を作るためにある地域を回っている方が

	持っている資料の中に、民生児童委員と社協は女性の担当者ばかりで支援になるのかというような文々があった。民生委員の災害時の役割は、平時にひとり暮らし世帯等の情報収集を行うことと、災害発生後に困っている住民に各種制度や支援の情報提供をすることだ。資料を持って回っていた方は、災害時にひとり暮らしの家に助けに行くのが民生委員の役割と思っていたかもしれないが、助ける組織に対し情報提供することはあっても、民生委員自ら助けには行かないというのが東日本大震災からの教訓でもある。計画づくりの上で、町民の誤解がないようにしていただきたい。
福井副委員長	農業従事者の高齢化など、町内の農業は先が見えてきている。46 ページの基本施策 11 の内容が現実とかけ離れているように思えるが、どうなのか。
事務局	農業従事者の減少に伴い、残された農地をどう活用していくかという視点を踏まえたうえで、次回の委員会までに基本施策 11 の内容を新たな書きぶりに修正させていただきたいと考えています。
中山委員長	人口ビジョンの観点から、今後の政策の中で子育て支援は大変重要です。子育て支援は 38 ページの政策目標 2 に含まれると思いますが、現状では教育・スポーツを主題に構成されており、もっと子育て支援を前面に出したほうがいいと思います。37 ページの人口シミュレーションのグラフは 2045 年までの推計しかないので、何も対策を打たない場合の社人研推計と対策を打った場合のパターン 2 との差はさほどないように見えますが、実はそれ以降、パターン 2 がその先一定期間を減ると人口減少が止まり安定するのに対し、社人研推計では 22 世紀に入る頃には人口が 2000 人ほどまで減少してしまいます。対策が遅れるほど厳しくなるので、総合計画・総合戦略において子育て支援をかなり大きな課題にする必要があります。政策目標 2 の中に子育て支援が含まれているとはいえ、もっと際だたせるようにするほうがいいと思います。人口ビジョンとの関係では、女性の就労と育児をどう両立させるかということも、出生率に大きく影響してきます。女性に就労を選ぶか、育児を選ぶかという悩みがある限り、出生率の回復は期待できないので、子育てをしながら働き続けられる環境があるかどうかということが非常に重要となってきます。私は安堵町に住んだことがないのでよくわかりませんが、就労と育児を両立させる上で重要な要素の一つとなるのが公共交通だと思います。17 ページの住民アンケートで「住みにくい」と思う理由で 2 番目に多かったのが「交通の便が悪いから」です。マイカーがあれば便利ですが、大阪や奈良市内に通勤するとなると、マイカーではなく公共交通を使うことになります。これに関連して 18 ページのアンケートを見ると、（8）公共交通の充実と（18）商業の振興に対する不満がかなり高いことがわかります。近年の若い人が子育てをしながら働くことを考えた場合、駅の近くのアパートを借りる割合が圧倒的に高い。では、駅がなか

	ったらどうするかとなると、駅に出やすい環境をどう作るかにかかってくるわけで、安堵町に住んで子育てをしながら働くことを考えた場合、ポイントの一つが公共交通ではないかと思います。公共交通の充実は政策目標５の中に含まれる項目になります。簡単な政策目標ではありませんが、それを乗り越えていけるかどうかが、総合計画・総合戦略の大きなポイントになると思います。
山﨑委員	基本施策５の「地域ぐるみの子育ての推進」に関して、子育てボランティアの方はとても頑張って活動しているが、コロナウイルスの影響であまり利用者がないと聞いている。こういうものがあるというアピールができていないのではないか。また公共交通に関しては、最近 JR 法隆寺駅周辺に駐車場が増えたので、車で駅まで行けば利用しやすい。一方近鉄は駅周辺に駐車場が少なく、利用しにくい。JR で大阪に出る人が多く、近鉄で京都に出る人が少ないのかもしれないが、近鉄の駅周辺に駐車場が整備されれば、利用しやすくなると思う。
福田副委員長	娘が斑鳩町に住んでいるが、安堵町から孫の送迎をするなどしても一つの生きがいであり負担を感じない。そういったこともあり、私自身は生活の中で公共交通機関についても全く不便を感じない。町内に駅がないというが、自分の生活ベースに合わせて JR なら法隆寺、大和小泉、近鉄なら筒井、平端の各駅を使い分けられるので、むしろ便利だ。
西本委員	中山委員長からご指摘があったように、行政としては、子育ては大きな柱だと認識している。若い夫婦がどの町に住もうかと考えるときに、保育園やこども園など、子ども預かってくれる施設がいかに充実しているかということが大きな要素だと聞いている。子育てに特化した行政を進めれば、人口は相当増える。人から聞いた話だが、フランスのパリは総花的な行政をやっていて、隣接するベルサイユは子育てに特化した行政をやっている。当然若い世代はベルサイユの方に集まるので、出生率は相当違うらしい。安堵町では子育てに特化した行政はしにくく、ある程度総花的にやっていくが、その中で人口ビジョンをどう考えていくかということになる。これまでも生産年齢にあたる方が安堵町に住む場合、家賃補助をしてきた。また、町内に家を建てる方に対しては資産税の優遇措置を講じてきた。こうした制度を利用する人はそれなりにはいるが、人口減少を抑えるような大きな効果は出ていない。根本的な要因としては、安堵町の町域が狭い上に住居専用区域など都市計画上の線引きが厳しく、開発できる土地はほぼすべて既に開発されてしまっていることだ。このため、次世代が親と同居し続けることは難しく、新たな住居を町外に求める傾向にある。この状況を打開するには、もう少し地域別に都市計画を運用できないかと思う。例えば農地について、農業そのものを一つの企業として営んでいける地域と、宅地開発ができるよう制限を緩和する地域に区分するようなことができれば、町内に住宅を増やすことができる。現状のままでは、これ以上、住宅を増やす

	のは難しい。もう一つ、公共交通の充実についてもしっかり進めるつもりでいる。ただ、国が交通不便地域と定めるのは 2.5km 以内に鉄道駅もバス停もない地域で、安堵町はどこも対象となりにくいために国や県の支援を受けにくく、これまで町独自の考え方で交通対策を進めてきた。また、どのような公共交通が安堵町に合っているのかと考えた場合、住民は駅へのアクセスの利便性などからデマンド型交通を求めるが、事業所は町内の住民だけでは従業員をまかないきれないため、自社専用の送迎バスの運営を含め、町内の出と入を同時に担保できる交通の仕組みを求める。こうしたことを踏まえて、安堵町にコミュニティバスを導入し、その利用が難しい地域についてはデマンド崩れのタクシーで補完している。公共交通については、今回の計画の中でどのあたりまで進めるかというたたき台を事務局と検討するつもりでいたが、今日の段階ではまだできていない。それと、安堵町の高齢者が医療機関を行き来する場合、平端駅の利用者が多いので、平端駅へのアクセスを充実させる必要があると考えている。その上、この先、平端駅東側の開発構想が進められる予定で、駅前広場が整備され、平端地域の窓口は東側になる。コーナン前の道はこの駅前広場にアクセスし、さらに中央市場方面につながる予定だ。また、中央市場の機能は縮小し、空いたスペースにアリーナとホテル、奈良県産の食材を活用した食のスペースが整備される。こうしたことや筒井駅、大和小泉駅へのアクセスも考え合わせながら、安堵町の公共交通の整備を考えていく必要がある。それとローソン前の道は将来、富雄川に抜ける。さらにコーナンの西側には、遊水地の工事専用道路が整備され、工事終了後は県道として一般利用が可能になる。こうして町内に縦と横の軸となる道路網が完成する。こうした構想を前提に企業誘致も進めたいと考えており、今後 5 年から 10 年の間に安堵町の都市基盤は相当強化できる。
中山委員長	先ほど、若い方が家を建てようと思っても、そのための土地が町内には少ないというご意見がありました。24 ページに安堵町の都市計画図を見ると、調整区域にも集落がたくさんあります。調整区域でも区域指定を行って住宅を建てられるようにしているところが県内にもたくさんありますが、安堵町の場合、調整区域にある集落というのは、土地利用計画上、区域指定はされていないのでしょうか。
西本委員	調整区域も準工業地域も全て指定している。
中山委員長	確かに、一般的には調整区域に家を建てにくいですが、調整区域でも特別に区域指定を行い、住宅なら建てられるようにしている市町村が県内にけっこうあります。この都市計画図を見る限り、安堵町は市街化区域が非常に狭い。準工業地域もありますが、住宅の用途地域がそんなに多くないので、新たに住宅を建てにくいという状況であれば、何か方策を考える必要があると思います。

山﨑委員	43 ページの基本施策６の文中には「地域の自然や歴史を活用し」、45 ページの基本施策 10 の文中には「本町の自然や歴史、文化の魅力」といった記述がある。民生委員はボランティア団体と協力して、安堵小学校の１年生が、上級生の授業が終わるまで待つ間、かるた大会などを行っている。これまでは奈良市の世界文化遺産かるたを使っていたが、このほど安堵町の自然や歴史を使ったオリジナルのかるたを作ろうということになり、民生委員で作り始めた。素人が作るものなので、当初は小学校だけでちょっと使えればと考えていたが、あまりにも素晴らしい出来栄えなので、Ａ４判の大きさにきちんと加工することにした。他に活用できるかもしれないので、ぜひ見てみていただきたい。
中山委員長	次回の推進委員会では基本計画が提案される予定ですが、併せて基本構想についてももう一度ご議論いただければと思います。文々は若干変わるかもしれませんが、６つの政策目標と 19 の基本施策については尊重した基本計画案が出てくることと思います。
（３）その他	
	◆事務局より、第３回推進委員会は７月 26 日（月）午後１時 30 分から開催することが伝えられた。
中山委員長	委員の皆さまから、全体を通じてご意見、ご質問等はございますか。なければ、本日の議事はすべて終了です。